

地域とともに生きる群馬用水

県央を潤して 通水 50 年

(首都圏の台所を支える群馬用水をご案内します)

群馬用水は、群馬県の県央地域 7 市町村にまたがる利根川左岸の赤城南麓と右岸の榛名東麓の約 6,300ha の農地を潤す水路です。

昭和 44 年 6 月 21 日の幹線水路の全面通水以来、50 年にわたり、県央地域の農地を潤し、首都圏の台所として首都圏への新鮮な農産物供給のための下支えをしてまいりました。

通水 50 年を期に、群馬県の皆様をはじめ、広く国民のみなさまに、改めて群馬用水の役割を知っていただきたく、報道機関の皆様には群馬用水施設及び群馬用水で潤う農地をご案内させていただきたく、お知らせいたします。

場所 : 群馬用水施設
群馬用水の農業用水受益地域
渋川市、榛東村、吉岡町、高崎市、
前橋市、桐生市、伊勢崎市

★個別対応とさせていただきますので、日時及び行程につきましては個々の機関さまのご都合に合わせて予定させていただきます。

ご希望される日時の 1 週間程度前までにご連絡いただきたくお願いいたします。なお、ご希望の日時は二、三お示しいただければ幸いです。

令和元年 6 月 10 日

発表記者クラブ

刀水クラブ、テレビ記者会
水資源記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 群馬用水管理所 総務班 鈴木
群馬県前橋市古市町 386 番地 電話 027(251)4266

群馬用水の概要

1. 群馬用水の概要

群馬用水は、先人たちが、農地の水不足を補うために、利根川の清流をかんがい用水として利用し、豊かな農業経営を目指したいとの悲願のもと、水資源開発公団（現：独立行政法人水資源機構）や群馬県によって事業が実施され、幹線水路施設は昭和44年に、県営事業は平成元年に完成しました。

群馬用水の通水により、水田へ安定した給水ができるようになり、水不足の解消はもとより、畑地では用水利用により多種多様な作物栽培が行われるようになり、食料の安定供給や農家所得の向上に貢献してきました。

現在は、首都圏の台所として群馬県内のみならず、東京や埼玉などへ新鮮な農産物を供給する地域となっています。

また、昭和58年からは、群馬用水の利水高度化計画に基づき、水道用水にも供しています。

2. 施設の概要

水資源機構施設

導水幹線 約 4 km

幹線水路 赤城幹線 約 3.3 km

榛名幹線 約 2.4 km

支線水路 約 2.1 km

揚水機場 6ヶ所

土地改良区管理施設

調整池 77ヶ所

支線水路 約 13.8 km

末端水路 約 1,000 km



赤榛分水工



利根川水管橋



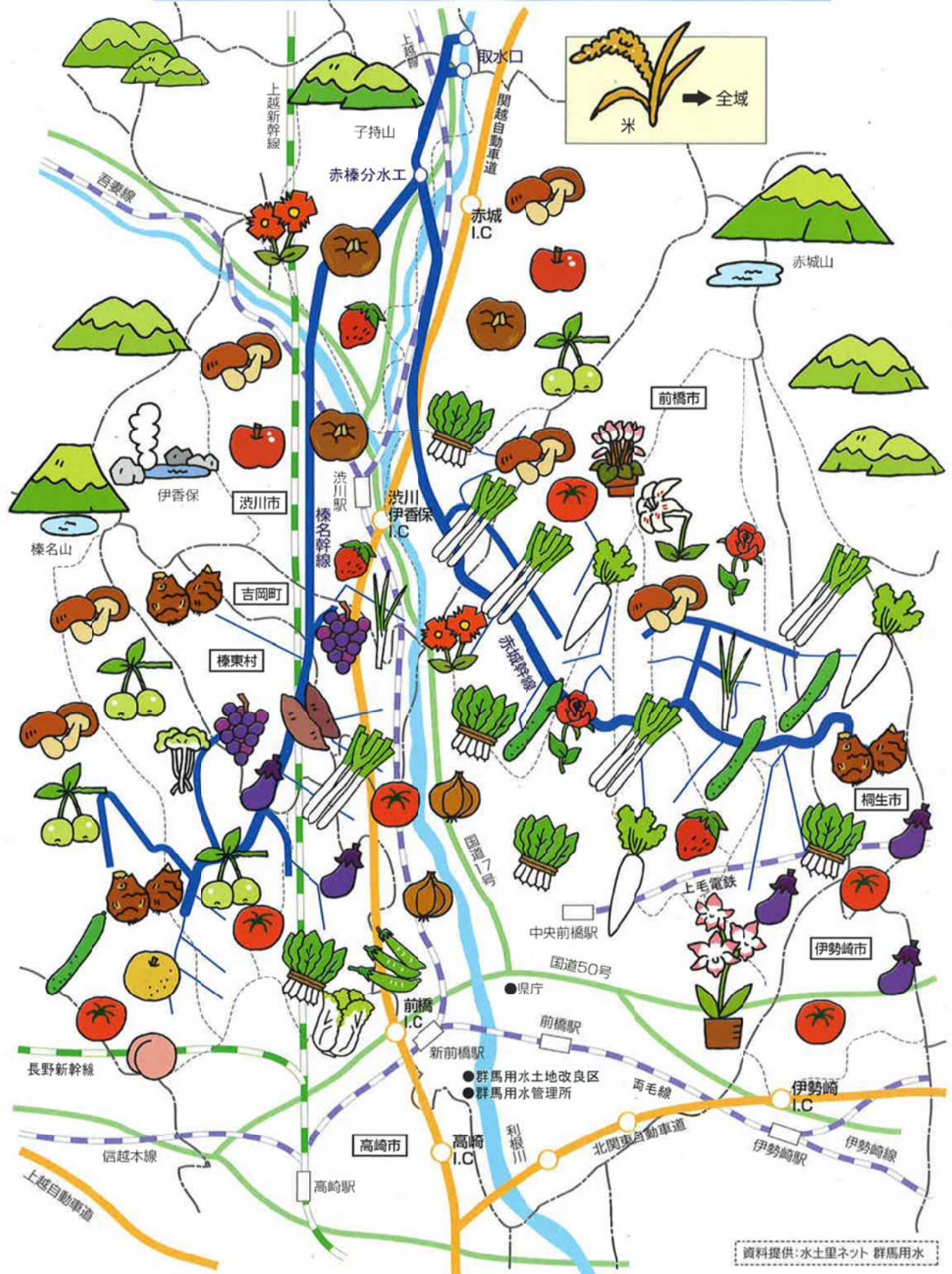
畑地での灌漑の状況



水田への給水

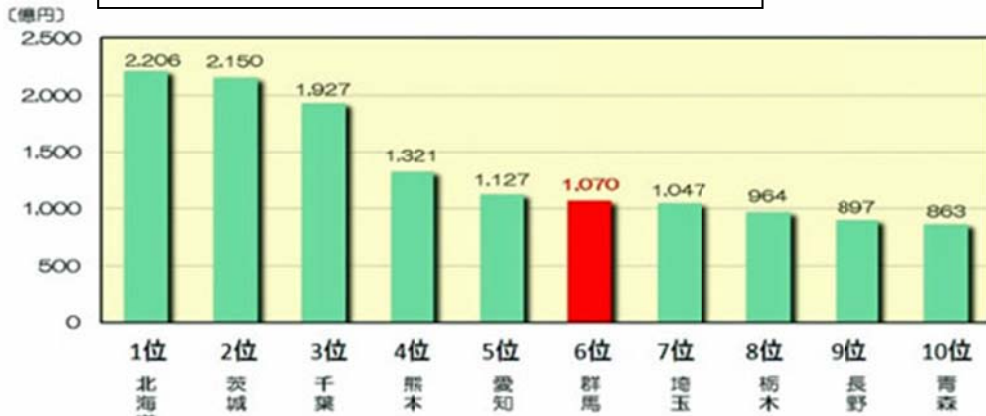
3. 地域で生産される農産物

絵で見る群馬用水地域の農産物



群馬県の野菜（群馬県 HP より）

平成28年農業産出額（野菜）の全国順位



※第1報の数値

（資料：農林水産統計）

本県において、生産量が全国5位に入る20品目のうち、16品目が野菜でありバラエティ豊かな野菜生産が、本県農業の特色となっています。

- 全国第1位：キャベツ
- 全国第2位：きゅうり、えだまめ、ふき
- 全国第3位：はくさい、ほうれんそう、レタス、なす
- 全国第4位：スイートコーン、やまのいも、ちんげんさい
- 全国第5位：ねぎ、こまつな、ごぼう、にら、しゅんぎく

県では、生産が盛んで基幹的な品目である「きゅうり」「トマト」「なす」「いちご」「キャベツ」「ほうれんそう」「レタス」「ねぎ」の8つを重点品目に位置づけ、戦略的な生産振興を図っています。

きゅうり



きゅうり

- ハウスを利用して、促成（1～6月出荷）と抑制（9～11月出荷）の2作型を組み合わせた栽培が行われています。
- 平成19年から始まった県統一規格共計販売により、安定出荷と有利販売が行われています。
- 主な産地は板倉町、前橋市、館林市、伊勢崎市、桐生市などです。

トマト



トマト

- 平坦地域でのハウス促成栽培（1～6月出荷）と、涼やかな中山間地域での雨よけ栽培（7～10月出荷）が行われています。
- 高糖度のフルーツトマトや加工向けの契約栽培など、特徴のある生産も行われています。
- 主な産地は中山間地域の沼田市、昭和村、片品村、平坦地の伊勢崎市、みどり市などです。

なす



なす

- 無加温ハウスを利用した半促成栽培（3～7月出荷）と、露地栽培（6～11月出荷）により、長期にわたり出荷されています。
 - 露地栽培は、新規栽培者が取り組みやすい品目として新たな産地が形成されています。
 - 主な産地は伊勢崎市、前橋市、高崎市、みどり市、富岡市などです。
- 平成28・29年には、群馬県産夏秋なすの出荷量が日本一になりました。

いちご



いちご

- 平坦地から中山間地まで広く施設栽培が行われ、12月から7月まで出荷されています。
- 県育成促成品種「やよいひめ」をはじめ、業務用需要が高い県育成半促成品種「おげあかりん」等が栽培されています。
- 主な産地は藤岡市、昭和村、富岡市、館林市、太田市、前橋市、渋川市、沼田市などです。

キャベツ



キャベツ

- 高冷地で生産される夏秋キャベツ（7～10月出荷）は、日本一の生産量を誇ります。冷涼な気候を活かした高品質なキャベツが生産されています。
- 冬春キャベツも、生産量は少ないものの、平坦地を中心に、主に業務加工向けに栽培されています。
- 主な産地は中山間地域の嬬恋村、昭和村、長野原町、平坦地の伊勢崎市、前橋市などです。

ほうれんそう



ほうれんそう

- 秋から冬（10～3月）にかけての出荷量が年間出荷量の約65%を占め、県内の平坦地から中山間地まで広く産地が形成されています。
- 雨よけハウスの周年栽培により、雇用を導入した企業的な大規模経営体が育成されています。
- 主な産地は中山間地域の昭和村、平坦地の太田市、伊勢崎市、前橋市などです。

ねぎ



ねぎ

- 秋冬ねぎ（10～3月出荷）が年間出荷量の約80%を占めています。また、西部地域の下仁田ねぎは全国的にも有名です。
- 生産拡大が期待される品目として、各地域で積極的な生産振興が図られています。
- 主な産地は平坦地の前橋市、太田市、伊勢崎市などです。